

2017.4

(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみやま 富薬

4号

第39巻  
No.333



ハシリドコロ *Scopolia japonica* Maxim. (ナス科 *Solanaceae*)

**生薬** ロート根 茎葉が枯死する初夏に掘上げ、ひげ根を除いて水洗し、陽乾する。十分に乾燥するまで2ヶ月を要する。

**成分** トロパナルカロイド：hyoscyamine, atropine, scopolamine、オキシクマリン化合物：scopoletinとその配糖体 scopolin、ステロイド配糖体：scopolosid I, II等。

**効能** ロートエキス製造原料。ロートエキスは鎮痛、鎮痙薬として製剤に配合される。毒性が強いため一般には使用しない。



生薬 ハシリドコロ

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



日本薬局方にはロートコンの名で収載され、漢字の表記はありません。中国において莨菪は古くから使われた薬で、『神農本草経』の下品に収載され「久しく服すれば、身体を軽くし、奔馬に走り及ぶほどの健脚になり…多く食すれば狂走せしめる」と、まるでハシリドコロ（走り+野老=オニドコロ *Dioscorea tokoro* の根）の語源となったようなことが記されています。李時珍(1518-1593)も「その子、服すれば人を狂狼放宕せしむるところから名づけたものだ」と言っています。しかし薬用部位が種子であることや、『蜀本草』（934-965）に「葉は菘藍（ホソバタイセイ *Isatis tinctoria*）に似て、茎、葉みな細毛があり、花の色は白く、子は殻が罌の形をしている」と毛、花の色、種子の形などすべてがハシリドコロとは違っています。『図経本草』（1062）にも同様の記載があり、現在ではこれらの形態の記載や『証類本草』（1108）の図より、莨菪は一年草のシナヒヨス（*Hyoscyamus niger* var. *chinensis*）であるとされています。中国にはハシリドコロが自生していないことから、ハシリドコロのことを日本や朝鮮に自生するという意味の東莨菪とよんでいます。同属の賽莨菪（*S. camilioides*）は雲南省や四川省に分布し、根茎部を打撲や神経痛、リウマチ、外傷出血、骨折などに用いています。他に局法では東ヨーロッパに自生するヨウシュハシリドコロ（*S. carniolica*）と朝鮮半島に自生するチョウセンハシリドコロ（*S. parviflora*）をロートコンとして認めています。

初めてハシリドコロの根茎をロート根（莨菪根）としたのは、平賀源内（1728-1780）で、『物類品鑑』（1763）には「莨菪 和名ホメキクサ、東都方言ナナツキョウ、肥後方言ではハシリトコロと云う」、「誤てこれを食すれば、狂走して止まらず。故にハシリトコロと云う」と言っています。しかし、少しの疑いはあったようで、「この物効用が相近く、花、葉、子殻の形状も能く合うが、ただ一つ莖葉に細毛があるということが合わず」と述べています。その後、『本草綱目啓蒙』（1803）に「根の形、山草薺（オニドコロ）の根のごとし。誤ちて食えば、その味腹内にあるあいだは狂狂奔走す。故にハシリドコロの名あり」と莨菪根はハシリドコロの根であることを明記しています。

もう一つの誤解は江戸時代後期の文政9年（1826）にオランダの医師シーボルト（1796-1866）が江戸に寄った時、奥医師の土生玄碩（1762-1848）が質問した内容を著書『師談録』に記しています。シーボルトから譲り受けた秘薬はイタリアのルネサンスの時期に目を美しく見せる瞳孔拡散薬のベラドンナ（*Atropa belladonna*）であり、最初に分与され使ったのもベラドンナでした。その効能は顕著で使い果たしてしまい、日本に同様の薬草があるかどうか訊ねたところ、尾張ににあると教えられ、取り寄せて使ったところ、より効果を得ることができました。この薬草がハシリドコロであり、シーボルトの勘違いであったが、眼科の治療にハシリドコロが用いられた最初の治験でした。英語でハシリドコロのことを Japanese belladonna と呼ぶのはこれに由来しているのではと考えます。

以後ハシリドコロの効能が認められ、明治24年（1891）には長井長義（1845-1929）等によって atropine と scopolamin が発見され、日本薬局方第二版（1891）に莨菪草と莨菪根、第四版（1920）に莨菪根が収載され、第五版（1932）にロート根と表記されました。（村上守一 記）

以後ハシリドコロの効能が認められ、明治24年（1891）には長井長義（1845-1929）等によって atropine と scopolamin が発見され、日本薬局方第二版（1891）に莨菪草と莨菪根、第四版（1920）に莨菪根が収載され、第五版（1932）にロート根と表記されました。（村上守一 記）

以後ハシリドコロの効能が認められ、明治24年（1891）には長井長義（1845-1929）等によって atropine と scopolamin が発見され、日本薬局方第二版（1891）に莨菪草と莨菪根、第四版（1920）に莨菪根が収載され、第五版（1932）にロート根と表記されました。（村上守一 記）